

受講番号 18065 学校名 西部中学校 氏名 田岡 綾

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年4組 生徒数 29名
 科目名 3年 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 New Horizon English Course3

クラスの様子・特徴

元気で明るく反応が良い。好奇心旺盛で活発に発言もできるが、やや落ち着きに欠ける面が見られる。授業には前向きに参加するが、自主的に学習する力が身につけておらず、基礎学力が定着していない生も多いる。

問題の確定

反復練習が苦手で、基本的な英文の構造が理解できていない。また音読練習は最初から難しいとあきらめている様子が見られる。

予備調査

A 授業の観察

与られた課題には前向きに取り組める生徒が多いが、個人差がある。一度確認できたことでも時間が経過すると忘れてしまい、それが英語に対する苦手意識を更に強いものになっている。教え合いはできるが、とすれば他人に頼りがちである。

B 生徒による授業評価

1学期のアンケート結果
 ・あなたは英語の授業が好きですか。
 はい(44%)いいえ(40%)ふつう(20%)
 ・あなたは3年生までに、英語の力がついたと思いますか。
 はい(60%)いいえ(12%)ふつう(28%)

C 学力データ

CRTの結果より ~4領域得点率
 聞くこと(55.9%) 話すこと(61.3%)
 読むこと(49.6%) 書くこと(40.7%)
 *特に読む力と書く力の定着が弱いことが分かる。

リサーチ・クエスチョン

意欲的に取り組むことはできるが、基礎学力の定着に結びついておらず、語順を十分に理解できていないために「書く力」が身につけていない生徒に、英作文や文法の力を定着させるには、どのような指導が効果的だろうか。

仮説・実践・検証

仮説1

単元ごとに指定したページをナチュラルスピードできちんと読めるかを一人ずつテストし、発音指導を行う。そうすることが音読練習への意欲づけとなり、家庭でも音読練習に取り組めるのではないかと。その結果、ページに含まれるターゲットセンテンスの復習にもなるのではないかと。

実践1

ユニットごとにページを決め、音読の小テストを一人ずつ行った。練習の段階ではグループやペアでの助け合いを取り入れ、「皆で楽しく読む」ムード作りに努めた。ページを決める際には、できるだけターゲットセンテンスを多く含むものを選んだ。

検証1

各ユニットでの音読小テストが定着し、アクセントやイントネーションを意識して本読みを行うようになってきた。テストの際には皆の前でも失敗を恐れず、ほぼ全員の生徒がミスなしでつまらずに読むことができた。班活動による教え合いも見られ、次第に読み方についての質問も少なくなってきた。また、アンケートの結果からも、約90%の生徒が3年生になって以前より音読が出来るようになってきたと感じていることが分かった。

仮説2

特に重要な単語を取り入れた文をいくつかプリントにまとめ(読めるかシート)、毎時間ペアになり日本語の意味と一致させて読み合えば、忘れていた内容も思い出し、基本的な文型を定着させることができるのではないかと。

実践2

1年から現在までの重要構文をまとめたものを「読めるかシート」と名づけ、毎時間ペアになり5文ずつ、日本語を聞いて英語で読む、英語を聞いて日本語に直す、という音読練習の活動を行った。早く終わった生徒は、自分でもう一度音読して重要構文の確認を行った。

検証2

「読めるかシート」では1~3年の重要構文を復習できるようになっており、忘れていた構文を思い出すことに役立った。また、一人で練習するよりも友達と楽しく学び合うことができ、英語はつまらないという思いを払拭するのにも役立ったようだ。ただ、学力的に厳しい生徒には「その瞬間覚えていてもすぐ忘れてしまう」という悩みが生じ、書く力の定着には至らなかった生徒について何らかの手立てが必要と感じる。

仮説3

仮説2で読んだ5つの英文について、音読の練習だけでなく、毎回音読筆写していけば音声とスペルが一致していき文の構造を理解したり覚えたりできるようになるのではないかと。また、これを計画を立てて長いスパンで行っていかれば書く力の育成につながるだろうか。

実践3

仮説2で読んだ5つの英文については、別のプリントを与え音読筆写を行った。5文ずつ書いた後に、簡単に小テストを行い、自分自身で採点して理解度やつまづきを分析させるようにした。

検証3

音読練習を始めた当初は、書く練習をする余力がなかったのだが、慣れてくると「音読筆写」にも意欲的に取り組めるようになった。プレテストでは0点だった生徒が数回の練習の後では満点をとるようになってたり、定着の思わしくなかった生徒も正解の数が微増している。この活動が自分で自由に書いて表現する力に直接つながったと実感した生徒は一定数いたが、実感できない生徒も何人かいた。

研究の成果

3年の2学期は特に学校行事が多く授業が思うように進められず計画したおりに検証が十分には行えなかった。しかし1学期からの取り組みが定着してきて、生徒の中にはその学習効果を実感しながら前向きに取り組んでいる者もいる。最近行った英作文による自己表現活動では、辞書を引ながら語順を意識して自分の力で書けるようになったと実感した生徒が数人いた。また、努力しているが成果が得られないという点でつまづいている生徒も、書くのは苦手で音読練習には楽しさを感じ意欲的に取り組んでいるようだ。

今後の授業改善の課題

取り組みを継続させるには教師自身の信念や準備が必要不可欠であると反省している。この研究を通して、生徒の何人かは書く力を少しずつ身につけていくことができ、今後が楽しみである。しかし努力をしているのにも関わらず、今なお学力の定着に至っていない生徒も数名おり、今後も基本的な文の反復練習を続けていかなければ、と考えている。